

大学図書館近畿イニシアティブ運営委員会（第3回）議事概要

日 時 平成21年3月11日（水）15:00～18:15
場 所 甲南大学サイバーライブラリ5302教室（5号館3階）
出 席 兄井、今村（関西学院大学）、宮地、山田（甲南大学）、臼井、大野（大島代理）
（立命館大学）、上田、深川（同志社大学）、鹿田（近畿大学）、吉井（大阪市立大学）、
中岡、赤崎（大阪府立大学）、細戸、稲葉（大阪大学）、棚橋、奥田（神戸大学）、
長坂委員長、西山（京都大学）
欠 席 平方（大阪市立大学）
陪 席 尾崎（大阪国際大学）、増田（藍野大学）

- ・議事に先立ち、第1回運営委員会議事要録を確認した。
- ・私立短期大学図書館協議会近畿地区協議会の陪席を了承した。

I. 報告事項

1. 平成20年度活動報告

(1) 事務局

西山委員から、資料に基づいて平成20年度の活動概要が報告された。

(2) 各専門委員会

1) 能力開発専門委員会

鹿田主査から、資料に基づいて能力開発専門委員会の活動概要、初任者研修の実施報告と検討課題、決算、受講者アンケート結果が報告された。なお、主な検討課題は次の通り。

- ・リソグラフで印刷したため、配付資料（初任者研修資料）の一部に汚れが生じた。
- ・初任者研修の開催は9月頃が望ましい。そのため準備作業を前倒しする必要がある。
- ・メールによる研修応募受付でトラブルが発生した。
- ・近畿イニシア加盟館以外からの研修会参加希望者の扱いを検討してほしい。

2) 広報・Web 専門委員会

吉井主査から、資料に基づいて広報・Web 専門委員会の活動概要、アクセスログの動向が報告された。アクセスログの件数は前年度を下回っており、ホームページをより頻繁に更新していく必要があることが報告された。

3) 外部資金担当

吉井委員から、資料に基づいて平成20年度の賛助会員会費及び広告掲載件数が報告された。

(3) 各協（議）会

1) 国立大学図書館協会

細戸委員から、DRF（デジタルリポジトリ連合）の活動として、11月27日に横浜で行われた第10回図書館総合展のフォーラムに国立大学71名、公立大学9名、私立大学84名ほか、計272名の参加があり、学位論文のメタデータや著作権問題等について議論されたことが報告された。また、1月19日から20日にかけて大阪大学でおこなわれたDRF地域ワークショップDRF-Senriに国立大学37名、公立大学5名、私立大学16名ほか計74名の参加があったことが報告された。

2) 公立大学協会図書館協議会

吉井委員から2月24日におこなわれた講演会及び総会の概要が報告された。

3) 私立大学図書館協会西地区部会京都地区協議会

上田委員から、京都地区協議会諸会議の協議事項のうち、近畿イニシアの委員選出にかかわる事項が報告された。また、研修会参加者数が報告された。

4) 私立大学図書館協会西地区部会阪神地区協議会

兄井委員から、定期総会で役員校選出ルールを決めたことが報告された。また、次期の近畿イニシア運営委員に甲南大学、関西学院大学が引き続き就任する予定であることが報告された。

II. 協議事項

1. 平成20年度決算(案)・監査報告

西山委員から、資料に基づいて決算(案)が、監事館の赤崎委員から監査報告があり協議した結果、一部字句を修正した上で了承された。

2. 平成20年度大学図書館近畿イニシアティブ年次報告(案)

西山委員から、資料に基づいて年次報告の概要、及び、配付先を運営委員館並びに賛助会員とすることが提案され、協議の結果、了承された。なお、内容について修正事項があれば3月18日までに事務局に報告することとされた。

3. 平成21年度事業計画(案)

(1) 能力開発専門委員会

鹿田主査から、資料に基づいて平成21年度中級研修企画(案)が提案され、協議した結果、企画案の内容を能力開発専門委員会で練り直し、次回運営委員会で再度検討することとなった。協議で出された主な意見は次の通り。

- ・参加費は徴収しない方がよい。
- ・講師謝金基準は原則として一律20,000円となっている。今回の提案は高額すぎる。
- ・いい内容の研修には、それなりの負担が必要。
- ・研修参加者や参加者を雇用している大学が研修派遣のために負担しているコストに見合うだけの研修の内容を担保することが必要。
- ・今回の提案を見ただけでは企画の内容がわからない。マネジメントがテーマということだが、この研修を受けることで身の回りの問題点を発見することができるようになるのか、会議のまとめ方がうまくなるのか、プレゼン技術を磨くことができるのか、具体的なものが何もわからない。
- ・研修会の特徴として「能力開発専門委員自らも」という文言が入ることの意味がわからない。
- ・講師やファシリテーター(講師補助者)がグループワークなどでどのような役割を担うのかよくわからない。
- ・講師やファシリテーターは、グループワーク等の間、研修会場を巡回し、適宜指導をおこなう予定。
- ・研修内容として、館長や部長レベルのマネジメントではなく、3年以上の勤務経験をもつ職員のセルフマネジメント、チームマネジメントを中心にしたいと考えている。
- ・個々の大学でおこなう研修では、経費の制約もあり、なかなかプロには来てもらえない。近畿イニシアという団体にまとまることで、個々の大学ではおこなえない内容の研修を実施したい。
- ・昨年の中級研修でもプロに来てもらった。昨年受講した職員は研修後に意欲的に仕事に取り組むようになっており、効果があったと考えている。今回の提案は、目的をもう少しクリアにする必要がある。
- ・ファシリテーターの謝金は、謝礼基準から1日2万円と設定し、実働1.5日なので3万円とした。
- ・2日目の開始時間は10時ではなく9時にすべきではないか。
- ・研修内容が具体的にわかるような計画にしていきたい。研修に参加することで何が得られるのか、達成できるのかを盛り込んでいきたい。

なお、報告事項であげられた課題への対応について協議した結果、次のようになった。

- ・能力開発専門委員会が早期に動き出せるよう、運営委員会の開催時期を調整する。
- ・近畿イニシア加盟館に所属する職員からは参加費を徴収しない。近畿イニシア加盟館以外からの参加希望者からは実費（＝必要経費÷参加募集人数）を徴収する。
- ・資料印刷方法との関係にもよるが、来年度は裏表紙の広告は募集しないこととする。
- ・研修の参加募集案内送付文書の表現は、事務局で注意する。
- ・メールによる研修応募受付時のトラブル対応策を事務局で検討する。

また、講演者の掲載許可が得られた初任者研修資料について、鹿田主査から吉井主査に対してウェブへの掲載依頼があった。

(2) 広報・Web 専門委員会

吉井主査から資料に基づいて事業計画が提案され、協議した結果、原案通り了承された。

(3) 外部資金担当

吉井委員から資料に基づいて事業計画が提案され、協議した結果、原案通り了承された。

4. 平成21年度の体制等

(1) 運営委員会

1) 私立短期大学図書館協議会近畿地区協議会

大阪国際大学の尾崎氏から、資料に基づいて私立短期大学図書館協議会近畿地区協議会の状況、及び、5月の総会で近畿イニシア加盟を検討する予定であることが報告され、協議した結果、近畿イニシアへの加盟については、加盟要望書の提出を受けて運営委員会で検討すること、運営委員会委員・専門委員会委員の選出数については、短大図書館の専任職員が非常に少ないという状況を踏まえて対応を検討することが確認された。

2) 運営委員会等の体制

事務局から、資料に基づいて運営委員会等の体制について提案があり、協議した結果、各委員の任期を4月～3月から7月～6月に改訂する方向で3月中に関係規程を整備し、早急に来年度の運営委員会等の体制を整備することとなった。なお、協議で出された主な意見は次の通り。

- ・能力開発専門委員を隔年で総入れ替えすることは、事業の継続性確保という点で問題があり、できれば毎年半数入れ替えとした方がよい。
- ・委員の入れ替えは、各協（議）会の事情もあるので、すぐに変更することは難しい。
- ・近畿イニシアは協（議）会の連合なので、規程の明文化と規程に沿った運営が必須。
- ・専門委員に異動による交替があり得ることを考えると、専門委員は各協（議）会が委員個人を選出するのではなく、まず各協（議）会が委員館を選出し、選出された委員館が専門委員を選出するようにした方がよいのではないか。
- ・規程改訂が難しければ、申し合わせで対応することも可能ではないか。

(2) 専門委員会

1) 広報・Web 専門委員会

吉井主査から、資料に基づいて専門委員選出数の改訂について提案があり、協議した結果、原案通り了承された。

III. その他

1. 次回開催予定

長坂委員長から、資料に基づいて来年度運営委員会の会場館が提案され、協議した結果、原案通り了承され、第1回を神戸大学、第2回を立命館大学、第3回を大阪大学を会場としておこなうことが確認された。